

## 臨床情報の研究利用に関するお知らせ

**研究課題名** 眼球運動課題を用いた瀬川病の病態生理の解明  
**研究機関名** 医療法人社団昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック  
杏林大学医学部病態生理学  
**研究責任者** 寺尾 安生 福田 秀樹 星野 恭子

### 研究の目的

瀬川病の患者様では、大脳基底核のドーパミンという神経の異常が考えられています。当院では、1973年の開院以来、衝動性眼球運動の検査を通して、脳内ドーパミンの活性を評価してきました。この検査では、視覚誘導性サッカード（VGS）と記憶誘導性サッカード（MGS）の2種類を行い、それぞれの異常は大脳基底核に関連する脳内の異常を反映する、と考えられています。瀬川病では、記憶誘導性サッカードにおいて、初期随意サッカードの遅れを顕著に認め、目標へ到達する時間は延長されました。これらの変化は継年齢的に変化し、男性患者に顕著な異常がみられました。このことは、大脳基底核機能障害による随意運動の発現の障害を反映するものと考えられ、さらにドーパミン神経の年齢依存性変化と性差を示唆しています。この研究により、瀬川病の病態が解明されるだけでなく、ドーパミン神経の年齢や性別による変化を考察するうえで重要な研究と考えられています。

### 研究対象および方法

1973年11月から2014年12月までに瀬川小児神経学クリニックで診療を受けた瀬川病の方35名（男性患者11回、女性患者42回）で、視覚誘導（VGS）および記憶誘導サッカード（MGS）タスクを用いて衝動性眼球運動を記録した方を対象とし、正常コントロールと比較をしました。それぞれの結果を統計学的に評価しました。

この研究は、医療法人社団昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック倫理審査委員会の承認を得て実施するものです。

対象者： 1973年11月から2014年12月まで

瀬川小児神経学クリニックで診療を受けた瀬川病の方

方法： 診療録（カルテ）から抽出したデータを解析します。

### 研究に用いられる資料・情報

情報： 病歴、診療の治療歴、検査結果

### 外部への試料・情報の提供

ありません。

### 個人情報について

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報などを研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡ください。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

### 連絡先および担当者

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-8 瀬川ビル2階

医療法人社団昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック

理事長 星野恭子

連絡先電話：03-3294-0371